



大好きな秋が巡ってきました。日中の気温も日増しに下がってきて足早に季節は移ろいます。皆さまはいかにお過ごしでしょうか？イベントの多い季節ですね、張り切ってスポーツも読書も楽しみたいものです。今年こそは、紅葉した沢の清流を散歩したいと思っています。心も体も贅肉を落とすぞ！

今月はアスベストについての相談がいくつもありました。住宅で使われたアスベストに関してまとめてみましたのでお読みいただければ幸いです。数十年後に発症するなんてまさに時限爆弾のようで恐ろしいことです。現場で直接、建築作業に携わってきた皆さんのことが心配になります。問題が発見されてもすぐ製造を中止できない(させない?)決断の鈍さは、薬害エイズ事件の時も全く同じでした。

住宅の屋根や外壁にアスベストを含む成型版が使われましたが、飛散する恐れはないと言われていています。それでも処分に困る大きなゴミを抱え込んでしまっているようで気分が重くなります。

やはり、安心できるのは人間が触ってやさしい、あたたかい素材なのではないでしょうか。木や紙や漆喰への思いをさらに深めた事件でもあったように感じています。

9月18日は仲秋の名月でした。雲ひとつない空に輝き、ぽっかりと浮かぶ美しい月を見ることができました。ご覧になりましたか？



住まいに使われたアスベスト

アスベストの被害が報道されてからずいぶん経過しました。ご質問をいただくことも多いので、ここでは住宅に使われた建材が含有しているアスベストについてお知らせしたいと思います。

- 1.石綿化粧瓦
コロニアル(クボタ)やフルベスト(松下)など
- 2.サイディング
外壁材クボタ・松下・ダイケンなど
- 3.ロックウール天井材(吸音テックス)
松下・ダイケン・日東防など
- 4.珪酸カルシウム板、大平板、フレキシブルボードなど

1についてクボタでは2001年12月まで、松下では2003年6月まで製造。2はクボタでは1995年7月まで、松下では2000年12月まで製造。ニチハでは1981年(昭和56年)5月にアスベストが全廃されました。弊社で採用している窯業系サイディングはこのニチハ製です。3と4については1994年までに製造されたものにアスベストを含むものがあります。正確には各メーカーHPなどをご覧いただくか、お問い合わせください。

とりわけ大きな問題となっているのが、吹き付けアスベストまたはアスベストを含有している吹き付けロックウールですが一般の木造住宅に使われることはありませんから心配ありません。

クボタ松下電工外装株は「これらの製品は石綿がセメントや接着剤等で固化されていますので、通常使用では石綿が飛散せず特に健康面への影響はないと考えています。石綿含有製品を切断加工する場合、極微量の石綿が飛散することが考えられます。当社においてもその周囲への石綿の飛散量は微量増加することが確認されていますが、周囲の敷地境界の基準値以下であり、問題ないと考えます。また、切断作業に当たっては加工部位を濡らすなど湿潤状態にし、集塵しながら加工することが飛散防止に有効です。」と回答しています。

通常での健康被害はないと考えられますが解体や破損、またリフォームする際にはご注意ください。

一般的な住宅の屋根と壁、内装の一部に使われていました。現在は、ノンベストとなっています。(写真は無関係です。)



リフォーム雑感

ひとことでリフォームといっても一日で終わるいわゆる「修繕」から、お風呂やキッチンといった水廻りの交換、間仕切り自体も模様替える大規模なものまでさまざまです。リフォーム工事というのは新築とは全く異なった側面を持っています。

弊社の場合、会社設立より50年を経ていますからこれまでたくさんのお施主さんにお世話になってきました。新築したあとのメンテナンスの延長線上には必ずリフォーム工事的必要性があります。

リフォームをご依頼いただいた場合には、自分の工事の範囲にとどまらずに住まいの全てにわたって拘わる覚悟が必要だと考えます。他社にて施工した建物だからといって、自分の都合のよい工事だけ施工して、割に合わない部分については「工事した業者に依頼してください。」と断るわけにはいきません。

お客様が生活しながら工事を進める場合がほとんどですからキッチンや寝室などプライベートな部分まで立ち入ることにもなります。その際のお客様が職人や工事の関係者に気を使うストレスは並大抵ではないのではないかと思います。

内部のリフォームは特にお客様が労力を必要とし、快適な生活を脅かすことにもなりかねません。職人が室内でタバコを吸ったり、掃除が不十分だったりするのではないかと、心配になります。だから、より慎重に、なによりもまず信頼関係がとにかく大事だと思います。リフォームは新築とは違ってとてもデリケートな仕事です。仕上がりがよければいいというだけではない、新築の片手間にできるほど甘くはないと感じています。

リフォームの専門業者さんにはきっと学ぶことが多いのではないかと思います。

私自身はじめこれからは「躰」を大切にしたい会社になりたいと思います。どうか、ご指導いただければ幸いに存じます。

今回は文字ばかりで失礼しました。

発行者 ご連絡先
秋葉建設株 秋葉 忠夫
〒289-2163八日市場市南神崎52-1
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
Eメール master@woody-akiba.com
HP URL <http://woody-akiba.com/>
ご意見ご感想お待ちしております。